ダンス部応援フリーマガジン＆ウェブサイト

ダ☆スク!

d-s-k.jp
2019年
8月号
No.24
TAKE FREE

特集

Dancing common sence

顧問の考え

日本ダンス大会
レポート

編集部より

私はもともとダンサーではありません。音楽業界にいました。
キッズからプロまで、ダンサーのことを知りたいと思いながら、
「外から見えるダンスの世界」という目線を常に大事にしています。
そして、それが広がっていく波打ち際を注視しています。
ダンスに感動し、期待し、時に落胆し、そして夢を抱いています。
取材時に、顧問の先生と話しているとそんな気持ちが共鳴します。
先生方の「勝たせてあげたい」という強い愛情と共に、
さまざまな現実に対峙するご苦労を察します。今号は久々に筆を休めて、
5人の先生方に「ダンス部への想い」を託してみました。

2019年7月『ダンスク！』編集長　石原久佳

ダンスク Twitter

ダンス部員なら フォローすべし！

本誌連動サイト「ダンスク！」のTwitterでは、ダンス部大会の速報や
ダンス部訪問レポート、編集長MEMOなどを日々ツイート中。
ただ今フォロワー 6,000 人超え。
ダンス部入ったら、まずフォローしてね！

アカウント：@Danstreet203

ダンスク！

『ダンスク！』2019年8月号（24号）2019年7月15日刊行

今月の表紙：三重高等学校
写真：岡部守郎

●Staff
Publisher　石原 久佳　Hisayoshi Ishihara
Designer　RedRooster
Printer　共同印刷株式会社　Kyodo Printing Co.Ltd

●発行
株式会社ディーエスケイ　DSK Co.,ltd
https://d-s-k.jp/company　info@d-s-k.jp

●無料購読のご案内
『ダンスク！』購読ご希望の学校・団体の方は、以下までお申し込みください。
■ネット申し込み：
http://d-s-k.jp の購読申し込みフォームへ
■メール申し込み：
「学校名（団体名）」「代表者名」「送付先住所」「電話番号」「メールアドレス」「冊数（10 冊単位）」を書いてメール：info@d-s-k.jp へ
※学校団体以外への配布には事前審査がございます。

●情報掲載・広告掲載のご案内
株式会社ディーエスケイ
TEL：03-6421-3275
https://d-s-k.jp/company
info@d-s-k.jp
★全国ダンス部員や10代女子インフルエンサーに PR したい団体・企業の方、ぜひご連絡ください！

>>次号「第25号」は 9月中旬配布予定です！
（以降11月、1月、3月、5月、7月、9月刊行予定）

連動Webサイト
ダンスク！
d-s-k.jp

本誌フリーマガジンの
部数変更　新規申し込み　配布停止
はこちら ▶▶ d-s-k.jp/dansuku_entry/

※部数変更・新規は**次号からの対応**です（今号の追加配送は不可）。
※配布対象は**中高ダンス部**あるいはダンス団体です（審査有）。
※学校の場合、申し込みは**顧問の先生**が行なってください。

★ダンス部員・関係者のための情報が満載

『ダンスク！』バックナンバーのご案内

ご注文は…
【WEB】DANSTREETストアへ
（https://danstreet.thebase.in/）
（ご注文数・ご連絡先を明記）

株式会社ディーエスケイ
https://d-s-k.jp/company

21号 2019.1

★ダンス界全体の課題である音楽著作権について、ダンス部の活動に絞ってわかりやすく基礎知識を解説しています。また、ダンス自体の著作性や印税発生の可能性に関しても言及。

22号 2019.3

★ダンス部の活動に欠かせない「スマホ」についての使用状況をアンケート。1日使用時間、曲探し、ダンス動画の視聴から、部活での使用ルールやSNS活動についてなど。

23号 2019.5

ダンス部の大会以外のメイン活動「自主公演」について。顧問アンケート、同志社香里高校の公演レポート。三重高校の初めて自主公演制作ドキュメント。日大明誠高校取材など。

各200円（送料別）

ダンス部ハンドブック 基礎編
著：石原久佳／980円（送料込み）
リアルな現場取材を元に作られた唯一のダンス部向け入門書。そろえる道具は？練習方法は？ヒップホップって？振り付けはどうやって？などなど、ダンス部に必要な情報が満載！

本誌フリーマガジンの連動webサイト

Webサイト ＋ フリーマガジン ＋ SNS

ダンスク！web

最新情報はwebとSNSで！

アクセスは d-s-k.jp

記事カテゴリーは4つ

REPORT ▷▷▷大会レポート、ダンス部取材、ワークショップ取材
COLUMN ▷▷▷ダンス知識、マナー、コーチのコラム、K-POP、小説
INTERVIEW ▷▷▷プロからのアドバイス／ダンス部員インタビュー
NEWS ▷▷▷時事のダンス部情報、大会情報

見たい記事はタグで検索！

ダンス部大会の全チームレポート

編集長による全チーム写真付きレポート。アドバイスも含めてシビアにコメントされています。ダンススタジアムの全国大会に関しては、2015 年大会から独自採点も入れてレポート。各年のチーム傾向や、強豪校の推移などが一目瞭然でわかります。他に、「日本ダンス大会」「DCC」「全日本高等学校チームダンス選手権」も毎年全チームレポート！

タグ：全チームレポ／ダンス部大会速報／ダンススタジアム／DCC／日本ダンス大会

ダンス部取材

やっぱり気になる隣のダンス部。強豪校は、どんな場所でどんな練習方法をしているの？　動画も合わせてチェック！

過去の主な取材校：千葉県立幕張総合高校／都立鷺宮高校／品川女子高校／神奈川県立光陵高校／桜丘高校（愛知）／都立狛江高校／神奈川県立川和高校／千葉敬愛高校／駒澤大学高校／神奈川県立川崎北高校／日体大荏原高校／北九州市立高校／大阪府立堺西高校／奈良一条高校／大阪府立登美丘高校

タグ：ダンス部取材／練習方法

プロからのアドバイス

ダンス部の盛り上がりでプロやストリートシーンとの距離も近くなってきた。ダンス部に期待するプロからのアドバイスは貴重だ。彼らからの「言葉のレッスン」をぜひ役立ててほしい！

過去の主なプロダンサー：仲宗根梨乃／TAKAHIRO／ISOPP／SHUHO／KYOKA／MIYU／kanu／akane／黄帝心仙人／KAORIalive／GANMI

タグ：プロダンサー／アドバイス

動画

ダンスはやっぱり見るのが一目瞭然。ダンス部取材の際に撮った練習動画や部員たちの元気な姿、そしてダンスクがプロデュースするワークショップのレポートや、基礎トレーニング動画の決定版「毎日！ DANCE トレーニング」もぜひチェックしてね！

タグ：動画／練習方法／ダンス部取材

コラム

ダンス部に知ってほしいダンスカルチャーの知識やダンス部に関する考察を編集長が書き下ろしています。強豪高校ダンス部コーチのASUKA Yazawaの実践的なアドバイスもコラム連載。K-POP 好きにはたまらない貴重な韓国情報も必見です！

タグ：ASUKA Yazawa／韓国／アンケート

日々更新される ダンス部情報 を ぜひ活用してください！

Twitter／Instagramで記事の更新情報がリリースされます

@Danstreet203

@danstreet_snap

特集 顧問の考え

Dancing common sence

ダンス部で生まれる新しい教育の可能性

まず「顧問の考え」アリ

ダンス部を取材する際、当然ステージでのパフォーマンスに興味を抱いてオファーするのであるが、実際に訪れてみると「あ〜、なるほど」と合点することが多々ある。

練習環境がそのままダンスに出ているのだ。集中力の高いパフォーマンスは集中力の高い練習から生まれ、ノリと自由さが特徴のダンス部の普段は練習からテンションが高い。出ハケのだらしなさは練習時の移動も同様で、緊張感が高すぎるムードは厳しい規律が裏にある。スタジオ完備など環境の整ったダンス部にはプライドの高さが伺え、過酷な外練習をくぐり抜けたダンス部にはストリートの魂がにじみ出る——といった具合に。

練習方法や運営メソッドが確立されていないダンス部界には、同じダンス部が1つとしていない。そこが面白いのだ。それぞれがそれぞれの環境や目的の下に練習方法や伝統を形作っていく。部員は「うまくなりたい！勝ちたい！」の一心であり、それがダンス部総意の最大のモチベーションだろう。そのアクティブさを「教育機関でのダンス」の意義とシンク口するように指導しているのが顧問の先生たちだ。

ダンス部は他の歴史の長い部活動のように、指導メソッドや競技会の形態が確立しているわけではない。学校によっては「ダンス」というだけで色眼鏡で見られる状況は少なくなく、後発部活として練習場所の確保も大変だという。校内で大音量のダンスミュージックが流れ、個性的なユニフォーム(衣装)で練習していること自体がまだまだ見慣れないことなのだ。

活動自体も新しければ、その成果の表われ方も新しい。ダンス部大会には大手メディアが注目し、スター的存在のダンス部が登場、歌番組やコンサートでのコラボも珍しくない。また学内や地域のイベントの盛り上げ役として駆り出されることも多くなっただろう。そんな状況で開発される生徒たち能力には他の部活にはない可能性があり、これからの未来に生かされる有効な能力となるはずだ。

顧問の先生の教務をこなしながらの部活動指導には大きな負担があり、ダンス未経験者であれば戸惑うことも多いだろう。それでも消えない先生方の熱意と愛情は、ダンス部に潜在するそんな可能性に突き動かされているからではないだろうか。

新しい部活で、生徒と一緒にやり方を模索し、ダンス部の可能性に尽力する。取材時に聞く先生方のお話には、愛情があり、期待があり、柔軟性があり、哲学がある。ダンス部の個性や規律の根底には「顧問の考え」があり、その多様性はそのまま教育方針の多様性とも言える。

今回は、状況やタイプの違う顧問の先生5名にその考えを原稿としてまとめていただいた。部員の皆さん！皆さんの部活動を見守る顧問の先生は、いろいろ考えているのですよ！

（石原久佳：ダンスク！編集長）

奈良市立一条高等学校ダンス部　顧問　荒平 豊

ダンス部に魅せられたダンス未経験顧問たち

▲ストリート感と遊び心を根底にしたオリジナリティのある作品で、ダンス部大会では上位常連の強豪校だ。強いだけではなく「ここに一条高校あり！」というメッセージに溢れている。

踊りたいという衝動がもしあるなら踊ればよい。好きなことがあって夢中になれることがあるならそれは素敵なことだ。躊躇することなくダンス部で踊ろう。まずはステップを——。

現在、高校の部活動としてのダンス部はまだまだ成長過程にある。他の競技とは少し違って高校から初心者として始めることができるし、もし格段の意欲と情熱があれば、全国大会へ出場するチャンスも広がっている。発展途上にある高校ダンス部界であるがゆえの可能性と魅力が高校ダンス部にはあり、高校生たちが自分たちの力でそれぞれの地域において部活文化と伝統を築き上げることができる。

その一方、学校の部活動であることに鑑みた時、顧問の先生の果たすべき役割は大きい。ダンス部の場合、ダンサー教員が増えつつあるとはいえまだまだ少数であり、**ダンス未経験者が顧問を引き受けているケースが大半**だ。以前はダンス部顧問を嫌々とは言わないまでも渋々その任にあたっていた教員も多かったように思うが、ここ数年、ダンス部大会に行くたび感じるのは、ダンス未経験であっても生徒たちの活動を熱心に支援しそのダンスを愛している顧問の増加である。高校ダンス部がその華やかな部分をメディアで取り上げられ脚光を浴びる中、その活躍を多くの顧問の先生方が下支えしていると感じる。顧問の先生方もまた高校ダンス部に特有なそのダンスの魅力に惹きつけられているのだろう。高校生活3年間を2分半に凝縮した作品は観る者の心を射抜く力を確実に持っている。

一条高校の場合はどうかと言うと、顧問はまったくのダンス素人である。活動は生徒中心に進め、その月の練習スケジュールからその日の練習内容まですべて生徒が考えている。大会作品も生徒たちが自主的に作成する。顧問は基本何もしない。

無頼・反骨・雑草魂が一条高校ダンス部を表象する言葉である。技術指導できる日常的な指導者はいないので頼るべきものはない。どこにもない一条にしかない自分たちのダンスを追求する。部員の多くはダンス初心者であり、アスファルトの上で真夏の炎天下、真冬の寒風の中、踊り続ける。一条では特に決まったジャンルを全員で踊ることもない。好きなダンスを探してそれぞれ自分のスタイルを見つけ出す。このような活動ぶりは大会で勝つには不利だといえるだろう。同じジャンルを皆で繰り返し練習したほうが勝ちにつながるのかもしれないがその方法は採らない。ひとりひとりの個性を活かしつつ、それらを組み合わせて一条にしかないダンスを目指している。

プロのコレオグラファー作品が大会の上位入賞という昨今の情勢の中、大人数で揃えることに重点を置く高校ダンス部界の潮流に抗いつつ、一条高校は果敢なチャレンジを続けている。こんなダンス部がひとつくらいあったほうが面白いのではないかという思いもある。「**負けてたまるか**」**という強い思い**だ。今夏もまた生徒たちの作った作品で全国大会での優勝を目標に練習している。

先に顧問は何もしないと書いた。実はそのことが一条ダンス部における強みであると考えている。最大のストロングポイントであると。生徒たちは頼るべきものを持たないので無頼の精神を貫き、不安と格闘しながら最後まで突き進むしか道はない。それでこそストリートダンスであると信ずる。

今後、高校ダンス部界がさらなる発展を続け、広がりを見せた時、そのコンテンツは飽和状態をむかえ、均質化が進むかもしれない。望むべくは、それぞれの学校で生徒たちが主体となり、その独自のカラーが追求され、**ダンス部活動の中で協働性と多様性が展開される**ことである。

▲練習場所は「セミナーハウス前」という屋外の場合もある。夏は暑く、冬は寒い。部員たちのガッツが養われる。

荒平 豊

プロフィール●舞踊部として創立されたのが1951年と歴史は古いが、ストリートダンスをメインとする部になったのは2000年以降。2009年に顧問の荒平先生が就任してから急速に部が変化していった。ストリート感溢れる個性的な作風で、主要ダンス部大会での入賞歴は多数。年末の自主公演は通算6回を数える。

品川エトワール女子高等学校ダンス部　顧問　小杉陽介

初心者こそがダンス部で成長できる！

ダンスが流行している。ダンス部の新入部員の中には、ダンススクールに何年も通っていたり、PVやダンス動画を参考に踊っていたりと、ダンス経験のある生徒の割合が多くなってきた。そんな中でも、私はダンス未経験の初心者が、学校のダンス部でダンスを始めることを応援したい。なぜなら「初心者こそがダンス部で成長できる！」と思っているからだ。人は努力することで、どんどん成長できる。その成長速度は、初めて挑戦する分野の方が、だんぜん速いように思う。具体的な項目をいくつか挙げてみよう。

▲品川エトワールは、ダンススタジアム全国決勝大会を目指して毎年挑戦！　気合の入ったヒップホップを見せてくれる。

一つめ。**「身体能力」が上がる。**ダンスといえば、なんといっても「柔軟性」が必要だ。前屈や開脚は、自分の成長のわかりやすい指標になる。ダンス初心者の生徒ほど、自分の体の硬さが恥ずかしいからか、一生懸命柔軟練習に取り組む。練習を重ねているうちに、ダンス経験者よりも体が柔らかくなっていたケースを、私は何度も目にしてきた。そういう生徒に質問すると、練習と同じメニューを、寝る前や休日もやっていたりする。感心してほめると、ますます頑張ってくれる。これは柔軟性に限らない。「身体能力」全般が向上することも多く、体育科で行なう体力テストの数字が跳ね上がって、とても喜んでいる姿を見たこともある。努力と継続の成果が目に見える、これほど嬉しいことはない。

二つめ。**「コミュニケーション能力」が上がる。**特に高校のダンス部の活動は群舞が中心になるため、チームワークがとても重要だ。テーマ、曲、衣装、振付、練習スケジュール、練習方法、みんなで決めることがあまりにも多い。最終的に「何に決めるか」という意味でも、そこまでの過程で「どのように決めていくか」という意味でも、人の価値観は様々だ。どうしてもすれ違ったり、ぶつかったりする場面が出てくる。ダンス経験者は、自分が経験してきたダンスを前に出したくなる。ダンス初心者は、はじめは誰かの言うことについていくだけで、精一杯かもしれない。でも、それによって周囲の意見を「聞く力」が身につく。チームには「リーダー」が必要だが、リーダーについていく「フォロワー」も、同じくらい重要だ。**「集団を滑らかにしていく力」**は、初心者の方が発揮しやすいように思う。ただし、ダンスや部活動に少し慣れてきたら、誰かについていくばかりではなく、臆さずに「話す力」を身につけていくことも大事だ。初心者の人の発言だからこそ、誰もが見落としていたアイディアにつながることがある。その作品が、お客さんにどう伝わるかの判断もしやすい。初心者の発言だからこそ、話し合いや決定の輪に入りきれていない仲間を、救ってあげることができるかもしれない。

▲ダンスクでは、取材や講演会などで何度か訪れている。先生の人柄もあり、和気あいあいとしたムードのダンス部だ。

三つめ。**「学力」が伸びる。**部活動を頑張っていたら、勉強なんかしている時間はないと思うかもしれないが、そんなことはない。単純な足し算や引き算だけでは説明がつかないのが、高校生の成長だと思っている私はその実例を何度も見てきた。初心者がダンスに熱中することで、確かに最初は成績が落ちて叱られることもあるだろう。時には、「ダンスばかりやっていないで、勉強しなさい」と言われることもあるかもしれない。けれど、本番はここからだ。「どうやって勉強とダンスを両立させようか」この工夫を重ねることで、「個人の時間の使い方」が上手になる。さらに、先輩になると、前もって先生と相談をする機会が増えたり、あらかじめ同級生の間での役割分担をしたり、練習前後に後輩に指示をしたりする必要が出てくる。すると、個人の時間を確保するためには、「集団の時間の使い方」にも配慮が必要だということに気づく。この段階まで来ると、「社会的な時間の使い方」が上手になる。私が見てきた中では、学力が一気に伸びるのがこの段階だ。なんとかあきらめずに、両立を目指してほしい。

初心者のダンス部員のみなさん、数年後にめちゃくちゃ成長した自分に出会えることを楽しみにしながら、ダンスと高校生活に打ち込んでください。

小杉陽介

プロフィール●高校時代は剣道、大学時代からストリートダンスに熱中する。教科は国語。教育とダンスをつなげる団体「DANCE X cross」の事務局員も務める。部としては、各ダンス部大会へ精力的に出場し、決勝大会へのボーダーラインで奮闘中!

広島県立呉商業高等学校ダンス部　顧問　峠 愼司

公立高校ダンス部の発展のために

1 練習場の確保

公立高校の体育館は通常男女別で6部以上のクラブが共用するためローテーションが組んであり、同じ部が毎日使用するのは無理である。私の居住地（広島）では平日17時～19時の公営体育館は、各校の部活動で満杯の状態である。ダンス部は後発の部活動であるため学校体育のローテーションに入れないケースがある。第1の理由は、ダンス部に使用を認めると自分たち（他の部）の使用頻度が下がるというものである。第2は練習に流す楽曲のため練習に集中できないという主張である。

部員数が少人数である場合は、わずかなスペースでもこと足りるが、10数名を越えてくると練習場の確保が急務になる。私の場合は、週7日の2日を近隣の公立小学校の体育館、5日を公営の体育施設を練習に充てた。小学校は無料であるが、公営施設は使用料が必要である。当時は年間で約40万円の使用料がかかった。

ダンス部だけが多額の施設使用料を負担している点についてダンス部の保護者には不公平感が強い。学校によっては部活動で公営施設を使用した場合、PTA費等による補助制度を設けている。各部の利用実態に応じて補助制度を充実することが望まれる。

2 大会出場について

平成23年、呉宮原高校の顧問となったこの年、早速2年生8名を引率して第4回日本高校ダンス部選手権（ダンススタジアム）予選出場のため神戸に赴いた。交通費・宿泊費は全額保護者負担という条件で校長決裁を得たが、管理職が交替した翌年は、逆に保護者に負担を求めるべきではないという理由で一度ストップがかかった。

ダンス部の主要大会は、高体連、高文連等の主催ではないため顧問は公務出張にならないし、勝ち抜いた全国大会であっても部員の旅費・宿泊費にPTA費等からの補助が支給されない。むしろ公務と認定していない活動で教諭が自治体外で多数の生徒を引率する状況は管理上好ましくないとして出場許可がおりないケースが多いのではないか。

広島県では有志で広島県高等学校ダンス連盟を結成し、平成28年から広島県高等学校文化連盟に加入した。全国で5県目と仄聞する。ただ、今後ダンスの公的な全国組織が結成され大会が整備される可能性は少ない。現存の民間主催の大会に現に多くの公立高校が出場している現状を踏まえ、公立高校ダンス部の大会出場に道を開くことが求められる。また、旅費・宿泊費補助の財源が何に由来するかをよく考慮し、PTAの協力の下に規程を改定し、ダンス部の地位向上に努める必要がある。

▲自主公演の模様。試行錯誤を繰り返し、他校や卒業生との交流があり、生徒の成長の場となっている。

3 ダンス部をマネジメントする

私自身ダンスは全くの素人である。素人がダンス部をマネジメントするに当たってSWOT分析を用いて方向性を模索した。その結果、1つ目として他の運動部と同様にダンスの競技会に出場して成果を上げること、2つ目として自主公演を開催して活動の場を保障するとともに他校ダンス部との交流を図る、この2点を中期経営目標に掲げた。

高校生の行なうダンスはとかく「自己満足」に陥りやすい傾向にある。まずは自分たちの演技がどう評価されているかを知らなければ技術的向上は望めない。評価を受けるためには競技会に出場することである。また、毎年特定の時期にある競技会を目指して研鑽することで練習が恒常的になり、基礎訓練や筋力トレーニングにも励み、集団演技者としてチームワークも芽生える。ブロック大会や全国大会で他校の演技に触れることで技術的な向上も期待できる。自主公演では約25の演技を生徒が創作する。自主公演の練習を通して生徒は試行錯誤を繰り返し、創造性を発揮する。同時に卒業後もダンスに取り組む卒業生による振り付けの提供もあり、生徒にとってはよい成長の場である。さらに他校ダンス部に出演が依頼できれば、組織を持たないダンス部の生徒にとって貴重な交流の場になっていく。自主公演を開催する顧問のほとんどが実感されていると思うが、教育的な効果は何物にも替え難い。

峠 愼司

プロフィール●平成23年に広島県立呉宮原高校ダンス部顧問となり、ダンススタジアム、ミスダンストリル、チームダンス選手権に出場し、9回の全国大会出場経験を持つ。平成25年3月に呉宮原高校ダンス部公演会「ミヤハラダンスフェスタ」を創設。平成29年より広島県立呉商業高校教諭、同校ダンス部顧問。広島県高等学校ダンス連盟理事。

埼玉県立杉戸高等学校ダンス部

顧問　梶田翔司

ダンス部大会の正当な審査基準とは

ヒップホップに、5つの要素が提唱されて久しい。高校ダンス部シーンに「knowledge」は追究されているのだろうか。

大会で、審査員の顔ぶれに辟易することがある。フィギュアスケート、美術、書道など、点数をつけて巧拙を審査する分野はスポーツ・芸術問わずに様々であるが、**その分野の専門家以外が審査員を務めている**ものが他にあるだろうか。その分野の技術について明るくない人間が、イナバウワーやラッセンや楷書体が一般受けするからといって、そればかりを評価しているだろうか。おそらく、むしろ一般人にはわからないことであるからこそ、着氷時の安定性であるとか、印象派としてのマッスの調和性であるとか、草書体の筆の運びの大胆さであるとか、そういった専門的な見知からその分野の技術力を審査しているのではないだろうか。今日、「一流の作品は大衆にも伝わるのだから、ダンサー目線と一般目線との違いを論じるべきではない」という言説を目にする機会が増えた。その結論についての異論はない。しかし、それが技術の評価や指導をしないための詭弁となっていないだろうか。まず、専門的なダンス技術についての巧拙が評価され、そこに向けた努力がなされ、結果として一般にも伝わるほどに極まることに帰結するのが本来的なあり方である。**一般受けを第一優先にすることは、ダンスという競技の専門性を蔑ろにする行為**であり、いくら世俗化したとはいえダンスの持つ文化的背景や誇りを地に落とす行為といってよい。エンターテイメント性という名の下に、一般受けするかしないかで判断されてしまうことは、高校の部活動の大会として健全ではない。青春の全てをかけて必死にダンスに取り組んでいる高校生が、商業的な利権に左右されるのはあまりに酷である。もちろん、スポンサーとしての目線で評価をして、特別賞を与えるということは十分理解できる。しかし、審査員に一般人が混じって順位決定を行なうことは、大きな違和感を禁じ得ない。

▲先生仕込みのポップダンスのスキルに、ヒップホップやR&Bのグルーヴをミックスさせる。先生の感覚が若いだけに、カルチャー感やトレンドも意識されたダンスだ。

確かに衣装やメイクやテーマといった各要素は、ダンスにおいて必要な要素であると言える。しかし、それは肝心の技術を伝えるために効果的に作用するからであって、「ダンス」の大会であると位置づける以上、あくまで踊る技術が基軸となって評価されるべきと思われる。舞台装置として機能するもののみでも評価がなされるのであれば、それはもう総合的な舞台芸術全般を問うている大会であるということになる。それははたして「ダンス」部の大会であるといえるのだろうか。踊る練習をしないで、それ以外の要素を追究することは、**ダンス部の活動として本末転倒**ではないだろうか。また、ダンス技術に関する審査基準が、**ユニゾンを揃えるという技術のみに集中している**ように感じられる。大切なのは「揃っているか」よりも「揃え方」である。ストリートダンスで言えば、なにより大切なのはグルーヴや緩急をつけた上でのリズムキープであったり、アイソレーションの大きさやシルエットのかっこよさであったりする。それらが実現できないだけの技術力であった場合、たとえシンクロしていてもダンスとして上手く見えないと当の高校生ダンサーたちが感じているのではないだろうか。シンクロナイズドスイミングの名称ですら改称された今日、もはやユニゾンのシンクロ率のみを判断されるような大会はあまりにもお粗末に感じられる。

これは、毎日教壇に立って指導している教師という立場からの意見であるが、大会やメディアの言う「高校生らしさ」がひどく幼稚に感じられる。どのような高校を訪れても、**高校生の発達段階は断じてあれほど幼稚ではない**。まるで幼稚園のお遊戯会の評価に形容されるような場面で使われる「高校生らしさ」という言葉に、美的価値観を歪められる高校生がこれ以上生まれないことを切に望む。

部活動は、人格の完成という教育の目的を達成するために、目標を見据えて指導される。その目標となるべき大会では、ダンサー本位の望ましい審査が実現されていることが求められているといえよう。

▲本誌で杉戸高校を訪れた講演会の模様。積極的な質問や意見が交わされた。

梶田翔司

プロフィール●学生時代にストリートダンスに熱中し、2016年度より杉戸高校ダンス部顧問に就任。埼玉県高体連ダンス専門部へ加入、TOKYO TEACHER's TRIBE でも活動する。部の賞歴としては、東日本ダンスドリル春季競技会2018優勝、日本ダンス大会2019年審査員特別賞、全国高等学校ダンスドリル選手権大会2019部門2位など。

叡明高等学校ダンス部

顧問　上地莉果

22歳新任顧問が率いた東日本3位までの4年間

叡明高校ダンス部は現在部員数62名、ポップとヒップホップの2ジャンルに分かれています。これまでの4年間で実績を多く出した指導法は、「部員の自主性」を尊重すること、「ダンスはツール」であると部員と共通認識を持つことです。「スキルアップだけを目指すならうちの部活外で練習して」と厳しい言葉をかけることもありました。爽快な挨拶や礼儀正しく接することの美しさ、チームへ貢献する熱い姿勢、本番一発にかける集中力や度胸強さ。私はダンサーを育てている訳ではなく人間を育てていることに重きを置いています。気怠さやだらしなさが何となくカッコいいとされる思春期の高校生達に、**本質的なカッコよさを探究させ自主的に行動させる**。それを顧問が全力で応援する。これが私の指導法です。怠惰な姿勢やマイナスな言葉を発する行動は一見注目を集めやすいですが、愛情を十分に含んだ言葉のほうが長期的に心を揺さぶり、若い高校生の行動に自信をもたらします。顧問として意識することは部員の様子をよく見てあげること、ちょっとでもプラスなことをしてくれたら**全力で感謝を伝えたくさん褒める**ことです。これが4年間で実績を出せた秘訣だと考えます。

▲ポップダンスを武器にバトルで成果を出す男子チーム。

▲夏合宿は海岸近くで。世代の近い先生も一緒に楽しむ！

クラスの運営では標準層を基準に指導する傾向がありますが、その状況ではトップ層の実力を持った人間は足踏み状態となるので、**部活運営では基準を常にトップ層に合わせる**ことを顧問が強く示し、全体がより高いチームへと成長することを促します。大会に出場してトロフィーや賞状を毎回獲得してくれる部活になればこの上なく嬉しいと思う反面、例えばふらりと海外旅行に行って音が流れてそこで自然とリズムを感じられる、スキルの有無に関係なく音がそこにあるから踊るというダンスの在り方も存分に習得し楽しんでもらいたいのです。バトル練習をしなさいということではなく、部員達は自由に踊って楽しみの延長で練習をしています。昼休みにサイファーやバトル練習をしたいと職員室に来たり、修学旅行先でも踊ってる部員はなかなか面白いです。振り付けに踊らされているだけでは賞は勝ち取れない、徹底的に揃えて踊る表現の制約と、**ダンスの自由さを兼ね備えた指導**のバランスは難しいですが、自由にコミュニケーションのツールとして踊るダンスのかっこよさは、私の指導の原点にあります。

ダンス部にとってプラスになると思うことを積極的に取り組んでくれる部員が大好きです。人は誰かの役に立つことや感謝をされることに大きな充足感を得ます。それが部員同士の良い関係に繋がります。顧問と部員がふざけられる関係でいることは重要ですし、ユーモアも忘れてはなりません。ダンスという共通事項を通じて多くの経験を得てほしいといつも願います。WSをしに来てくださった世界的ダンサー（Mr. Wiggles／TONY GOGO／フォーマーアクション／LUCIFER／Force Elements優弥などその他多数）の素晴らしい人柄や成功体験に触れることで、世界的思考や努力量に触発されてほしいと思って私はWSをたくさん取り入れます。**若い時に一流の人に会うことはその後の人生の価値観に大きく左右する**でしょう。簡単に叶えられないことを叶えることは人生の財産となりますし、誇るべき青春の1ページになると思います。顧問の私自身が部員にとって出会えてよかった、先生という人柄に触れられてよかったと思ってもらえる存在になれていればとても嬉しいです。そして大人になっても長く関係が続くそんな心の強い繋がりの構築を目指して、今日も部員と共に楽しみ、勝利に向けて練習に励んでいます。

◀先生の知識や人脈を使って、レジェンド級のダンサーがWSに訪れる。写真はロックステディクルーのMr.Wiggles！

上地莉果

プロフィール●幼少期からストリートダンスを始め、キッズダンサーとしてコンテスト入賞やイベント出演を果たす。高校時代はダンス部部長を務め、同好会から部への昇格に尽力する。大学時代には世界8カ国30都市を訪れ、語学の習得と見聞を広める。部としては、ダンススタジアム東日本大会3位、WDC HIGH SCHOOL 5on5 FINALISTが最高位。その他、紅白歌合戦やアーティストとの共演などのメディア活動も精力的。

▶▶「顧問の考え」企画では引き続き顧問の皆さんからの原稿を募集しております。ご興味のある方は、info@d-s-k.jp までご一報ください。

日本ダンス大会で考える 2019年の傾向と「らしさ」

優勝・審査委員長賞
京都文京高等学校

2度目の優勝を果たした京都文教（審査委員長賞も獲得）。伝統の疾走ロッキンスタイルで毎年コンスタントな成績を収め、今年は見事にジャンプを決めた！

2019年6月22～23日@カルッツ川崎

レポート:石原久佳　撮影:村田卓

夏のダンス部大会シーズンの火蓋を切るような格好で毎年6月に行なわれる「日本ダンス大会」。今年は全国大会の会場をカルッツ川崎に移しての開催。予選動画のエントリー数は過去最高ということで、認知度も上がってきた。夏の大会へ向けての初作品お披露目をする学校も多いが、公立高校の3年生は6月引退が多いので、この大会が最後になる学生も多い。大会審査員は毎回固定されており、審査基準は「技術・ダンススキル」「印象・インパクト」「ステージング・構成力」「協調性・シンクロ」「教育的側面・エディティメント」というバランスの取れた5項目。過去の優勝校は、ストリート系、エンタメ系、アート系、メッセージ系と、どのスタイルも万遍なく評価されている。

参加した47校のレポートはダンスクのウェブ版（d-s-k.jp）に掲載したので、ここでは総評を記しておきたい。ステージを観ていて、まず気づいたのが照明の素晴らしさ。ここは間違いなく高校ダンス部大会の中ではナンバーワンだ。ダンスに照明の演出効果が重要なのは言うまでもなく、コンテストだからと言って平坦である必要はない。照明プランを考えるのも振り付けの一環であり、この日の照明スタッフさんも丹念に仕事をされていたので、プランの微細によってパフォーマンスにも差がついていたように思う。

ダンスの方はジャズ／ジャズヒップホップ系が増えた。そして純ヒップホップ系がガクンと減った。オールドスクール系も依然として多くはない。やはり、関東の女子中心の大会ということでそういった傾向になるのだろうが、実際は同ジャンルの「潰し合い」の様相もあり、青春感爆発の京都文教のロックダンスが抜きん出たのもこの辺に起因するところもあるだろう。

また、J-POPを使ってのメッセージ性の強い演舞や、演舞中の声出しも多く見られた。非常に高校生らしいアプローチで好感度も高いのだが、勝つために選んだ「飛び道具」が被っている状況とも言える。

大会に出るダンス部が増えれば、当然ながらレベルは上がっていく。かつて関東勢は関西勢にダンス力で後塵を拝していたが、その差はどんどん縮まっている状況が本大会でもわかる。定石や安定感で構築した作品ではもはや勝てない。本大会での「印象・インパクト」をあげる独創性やサプライズをどう考えていくか？本大会では、大胆に勇敢にスタイルを変える強豪校の姿がいくつか見られた。

ただ失って欲しくないのは「らしさ」だ。まず自分たちの強みを確立させること。自信を持って磨いていくこと。伝統として受け継いでいくこと。それぞれのダンス部「らしさ」を軸として、その年の戦い方を微調整する。多様な「らしさ」のぶつかり合いこそが高校ダンスの良質なファンを生み、各大会をより活性化するものと考えている。

準優勝・審査員賞
東京都立狛江高等学校

▲貫禄のパフォーマンスを見せた関東の強豪・狛江高校が準優勝（審査員賞も獲得）。夏の大会でのさらなる飛躍が期待できる。

REACH BEYOND賞　京都明徳高等学校

角田美和審査員賞　駒澤大学付属高等学校（東京）

蝶理特別賞　鎮西高等学校（熊本）

特別審査員賞　大阪市立汎愛高等学校

MIZUNO特別賞　北九州市立高等学校（福岡）

羽柴多賀子審査員賞　沖縄県立北中城高等学校

永利真弓審査員賞　大阪府立柴島高等学校

競技委員長賞　千葉敬愛高等学校

3位　大阪府立久米田高等学校

▲3位は展開の速さで見せる久米田高校。衣装チェンジや出ハケを導入し、踊りにしなやかさも加わった。

岩井孝子審査員賞　埼玉県立杉戸高等学校

全チームレポートは「ダンスク!」のウェブサイトd-s-k.jpへ！

東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校

TSMが誇る人気講師がアドバイス

高校ダンス部「群舞の魅せ方」はココがPOINT!

撮影：金子亜矢子

充実の設備はもちろん、実力派のプロダンサーが講師を務める東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校（TSM）。大人数での作品＝群舞がメインになるダンス部へ向けてアドバイスをもらった！

1 テーマ性

テーマとダンス、またはストーリーや衣装などはバランスが重要だと思います。ストーリーでも観た人の**解釈が幅広い**方が面白いと思うし、制作段階でダンス部以外の人の意見を聞くのも良いと思いますよ！

2 ダンス部の魅力

学校や地域によって**特色や伝統**があって、見ていて楽しいです。部の雰囲気や環境などが作品のカラーに現れていますよね！

3 パートの決め方

ジャズ系の作品では、まずシンメトリーの組み合わせを決めておくと安定感が出せますね。振り写しを進めながら、**パートごとにオーディション**をやることもあります。ユニゾン組、ソロパートなど適材適所を探します。

4 チームの人数

私の場合は18人前後のチームが一番作りやすいんです。どんな作品にも変化できるし、コミュニケーション的にも伝わりやすい。そこを超えるとチームの**コミュニケーションを密に**やらないといけなくなりますね。人数が多くなった場合は練習時の「返事」が重要です。指示待ちの雰囲気も良くない。返事でリハのテンションやテンポが決まり、作品の出来にも影響してくるんです。

5 ユニゾン

初心者が多い場合は、全員できるレベルでユニゾンを作ります。難しいことをやるよりは、**シンプルでカッコ良く**できる方がいいですからね。レベルの高いダンサーたちにはそれが活きるパートを作り、作品のクオリティをアップさせます。

6 Re-Style DANCE CUPへ挑戦するダンス部へ

テーマ表現に関しては、まずどんな表現方法にするか、お客さんにどんな印象を持ってもらいたいかをみんなで話し合ってみてください。また、いろんな楽曲アレンジがあるので、ひと通り流してみんなでフリーで踊り、良いノリの動きが出てきたら、それを元に作ってみるのも良いでしょう。良いステップはメンバーやお客さんに「伝染」する。**それこそがダンス**なんです！

MIWA

LEGEND TOKYOをはじめとする大会で数々の賞に輝き、「群舞のスペシャリスト」として圧倒的な芸術作品を生み出す。

YU JURRY

福岡県出身、長身を活かしたLOCKとHIPHOPを武器に、数々のアーティストとの共演で活躍中のプロダンサーでありTSM講師。

群舞の大人数を活かすためには、時に「引き算」をしてみるのも良いと思います。出ハケ、踊り分け、立ち位置の調整などで印象がガラリを変わりますよ。テーマ性の表現は、まず自分たちの主軸を決めて、そこをブラさないように作品を仕上げてください。みなさんの作品を楽しみにしています！

MIWAとYU JURRYが 全国高等学校 Re-Style DANCE CUP! 2019 の全エントリー作品をアドバイスします！

プロダンサーに作品アドバイスがもらえる大チャンス！
予選通過チームは本戦への修正ポイントとして、未通過チームも今後の課題として活かしてください！

TSMの体験授業へ行こう!

1日で3つのダンス体験ができる!

トリプル体験DAY

8/12祝 25日 集合10:00

※午後からの参加も可能です(集合12:00)

ジャンルを選択できる!

- テーマパークダンサー
- バックダンサー
- HIPHOPダンサー

8/12のみ

※その他音楽系、イベント系の科目も用意

ご予約・お問い合わせ　●東京駅（大手町）から15分! 東京メトロ東西線「西葛西駅」より徒歩3分!

学校法人 滋慶学園 COMグループ
TSM 東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校
〒134-0088 東京都江戸川区西葛西3-14-8
0120-532-304
メール tsminfo@tsm.ac.jp　HP http://www.tsm.ac.jp
TSM 検索

DANCEで資源を大切に——環境省が主催する高校生ダンスコンテスト

環境大臣杯 全国高等学校 Re-Style DANCE CUP! 2019

リ・スタイルダンスカップ

「限りある資源を未来へつなぐ。今、僕らにできること」。資源の大切さをテーマにした高校生ダンス大会「Re-Style DANCE CUP!」が全国規模にパワーアップして開催される。君たちのダンスのアピール力を社会に役立てるチャンスだ。

※3R=Reduceリデュース：減らす／Reuseリユース：繰り返し使う／Recycleリサイクル：再資源化するの3つの語の頭文字をとった言葉で、環境配慮に関するキーワード。

★エントリーはwebエントリーもしくは地方動画撮影会へ参加

主催：環境省　共催：市川市、高槻市、千葉市　連携：全日本高等学校ダンス連盟

「Re-Style DANCE CUP! 2019」ではより多くの参加を募るために、ウェブ動画エントリーもしくは関東・関西での動画撮影会を用意しています。どちらも平等に審査しますので、どしどし応募お待ちしています！

環境省 高校ダンス 検索

- ●参加対象：全国の高校生（1〜3年生までの2〜12名チーム）
- ●エントリー締切：9月20日（金）※地方動画撮影会エントリー締め切りは8月15日（水）
- ●関東地方動画撮影会：8月23日（金）@市川市文化会館
- ●関西地方動画撮影会：8月27日（火）@高槻現代劇場
- ●決勝：10月26日（土）会場は**イオンモール幕張新都心**に決定！
- ●決勝審査員：石原久佳（本誌編集長）、緒方浩（全日本高等学校ダンス連盟）、関根アヤノ（プロダンサー）、神田理保（名古屋CLEAR'S）
- ●ゲスト審査員：Jewel（EX：J☆Dee'Z）　●MC：しづにゃん

協力：ダンスチャンネル、ダンスク！、東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校、イオンモール、キットカット、inゼリー、DOVE、BEN&JERRY'S、きき湯ファインヒート

POCARI SWEAT × ダンスク!

ガチDANCE部サポート通信

ポカリスエット話題の新CM
「ポカリ青ダンス 雨のち晴れ」篇

雨が降る中で躍動した260名の高校生ダンサー
新たにTikTokオーディションで選ばれた7名の「叫び！」

この夏もダンス部の強いミカタ「ポカリスエット」。毎回CMが話題になるけど、新しいCMはチェックしたかな？　ヒロインの茅島みずきはじめ、2名の主要キャスト、TikTokオーディションで選ばれた7名のダンサー、その他合計260名が、雨が降る中、感情をむき出しにする「青ダンス」を披露しました。

撮影の数週間前から都内のスタジオに集まり振り付けをマスターしたメンバー達。初めは人見知りがありましたが、徐々に打ち解けて終わる頃には良いチームワークが芽生えていました。迎えた本番では、クレーン機からの雨によって水たまりができた校庭での激しいダンスで、靴が脱げてしまうメンバーが続出！　でも「靴が脱げても突き進む！」と260名が心を1つにして、圧巻のダンスを完成させました。踊り終わると、楽しそうに泥の中から靴を探す様子は高校生ならではの盛り上がりでした！

TikTokオーディションメンバー

中心愛
16歳（滋賀県出身）
感情を思いっきり出して踊ることが楽しかった！

松井栞乃
17歳（秋田県出身）
自分の中から湧き出る感情をみんなと一緒に表現できた！

内藤　万裕
17歳（神奈川県在住）
人生で最初で最後の良い経験ができた！

諏訪部麻侑
16歳（静岡県在住）
自分の殻を破って、このメンバーで最高のものを作れた！

廣納孝俊
15歳（東京都在住）
みんなと練習をしていくうちにやる気と実感がわいてきた！

福島華乃
17歳（福岡県在住）
泥のなか靴探ししてみんなと仲良くなれました！

坂本志士男
16歳（東京都在住）
みんなで「お疲れ」と言い合って仲良くなれた！

ポカリスエットブランドサイトhttps://pocarisweat.jp/

ヒロイン 茅島みずき

撮影では、私も靴が泥の中にはまってしまいました（笑）。みんなで靴を探したりして楽しかったですね！前回のCM撮影では、ダンスに苦手意識や恥ずかしさがあって感情を出すことに苦労しましたが、今回は自信を持って踊り、感情を出すことができました。今回のCMは、ダンスを揃えるだけでなく、みんな一人一人が違うポーズやダンスで個性や感情を爆発させているので、ぜひそこに注目してほしいです！

▶▶このWSの横様を動画でチェック！

「汗をかこう！」がテーマのポカリ×ダンスクWS MIKUNANAが町田総合高校を訪問！

恒例の高校ダンス部訪問WSは、人気のダンスユニットMIKUNANAが町田総合高校を訪れました。キュートなルックスとは裏腹に、WSは冒頭から負荷の高い筋トレでスタート！「うぅ～！」とか「ひえ～！」とか悲鳴の響く中、笑顔で「もっともっと！」とゲキを入れるMIKUNANA。「汗をかこう」をテーマにしたWSでしたが、スタートから間もなく部員たちは汗ビッショリです。

続いてのフリ入れでは、ポカリのCM曲「青ダンス 魂の叫び」を使って8×8サイズのスピーディな振り付けをレクチャー。シンプルな振り付けながら、独特の音取りとスピード感のあるダンスに、初心者の多い町田総合ダンス部員は最初戸惑っていましたが、持ち前のノリの良さで徐々に力強さを増していきます。最後は、数グループに分かれてお互いのダンスを発表。MIKUNANAもお手本のダンスを披露し、「イエ～イ！」とポカリで乾杯。ハイテンションなWSとなりました！

BABY-G
BABY-G 2019 SS COLLECTION
モデル：KANA(左)@ kn.sii.i
NOA(右)@ noa_dayo_828
撮影：金子亜矢子

Watch Me!!

KANA_NOA

人気の女子高生YouTuberは
DANCEとFASHIONで「映え」を極める！

BGA-250-7A3JF
¥13,000＋税

BGA-250-1A2JF

夏のビーチをテーマにしたビーチ・トラベラー・シリーズから、輝く貝殻をモチーフにしたNewモデル。きらめくデザインは夏のビーチやアクティビティにキラキラ映えます！

PROFILE

キッズ時代からの仲良し2人組、モデルやダンス活動を経て、中学時代からYouTuber活動を開始。TEENAGERS、ハイスクール研究室などのグループ活動ののち、今年「KANA＿NOA」としてデビュー。「KANA＿NOAちゃんねる」で、楽しく、自然に、オシャレに「映え」を追求する！

>>注目のインタビューはBABY-Gのサイト「Girl's PARTY!」に掲載中!
baby-g.jp/girlsparty

問い合わせ先 カシオ計算機お客様相談室
☎03-5334-4869／baby-g.jp
CasioBabyGJapan　babyg_jp